厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

要介護者に対する疾患別リハビリテーションから維持期・生活期リハビリテーションへの一貫したリハビリテーション手法の確立研究
文献レヴュー研究

研究分担者　篠原　博　青森県立保健大学健康科学部　准教授

研究要旨
介護保険の生活期リハビリテーションに関する研究のエビデンスを整理し、疾患別リハビリテーション治療から生活期リハビリテーションマネジメントへの一貫した効果的な手法を確立することへの一助として維持期・生活期リハビリテーションに関する研究のエビデンスの整理を実施した。維持期・生活期リハビリテーションに関する制度、介入法、評価法に関する用語から 15,572 論文を選出し、一次・二次スクリーニングを経て CQ に適した 333 論文を選出した。日本語論文は 292 論文、英語論文は 41 論文であった。システマティックレビューは 1 論文、無作為化比較研究は 17 論文選出されたものの多くは横断的な観察研究であった。介護保険リハビリテーションマネジメントに関する質の高いエビデンスは未だ少なく、レビュー研究・メタアナリシスを行うにはエビデンスを増やす必要があるといえる。

A．研究目的

平成 31 年 3 月 31 日で医療保険の維持期・生活期リハビリテーション治療の経過措置が終了となり、疾患別リハビリテーション治療が終了した後は介護保険の維持期・生活期リハビリテーションマネジメントへと役割分担が明確化された。介護保険の生活期リハビリテーションマネジメントでは、疾患別リハビリテーション治療からの一貫した手法が確立されておらず、生活期リハビリテーションマネジメントにおいては、未だ効果的な手法を模索しているのが現状である。我々は介護保険の生活期リハビリテーションマネジメントに関する研究のエビデンスを整理することで一貫した手法確立の一助となると考えた。本研究では CQ1 として「介護保険での生活期リハビリテーションマネジメントではどのようなエビデンスがあるのか？」、CQ2 として「エビデンスの中ではどのような評価項目を用いているのか？」を調査し、整理することを目的とした。

B．研究方法

文献レビューは PRISMA 声明に基づいて行った。まず、Key Word は（資料 4-P2）の通り、リハビリテーション領域に関する制度、介入法、評価法とし、PICO に準じて網羅的に組み込んだ。検索エンジンは医中誌 web、CiNii、Pubmed、CINAHL、CENTRAL とした。選出された論文に対し、包含基準および除外基準に則り（資料 4-P3 参照）、タイトルと抄録から CQ に適したものを選出した（一次スクリーニング）。次いで一次スクリーニングで選出された論文を入手し、全文から CQ に適したものを選出した（二次スクリーニング）。尚、一次・二次スクリーニングとも、一つの論文に対して二名の医師または関連専門職が実施した。最終レビューレヴューWG 会議を開催し、各論文のエビデンスの確定と整理を行った。

C．研究結果（資料 4-P4 参照）

検索エンジンにて 15,572 論文が選出され、899 の重複論文を除外した。14,673 論文に対し一次スクリーニングを実施し、

13,699 論文が除外された。981 論文に対して二次スクリーニングを実施し、333 論文（和文 292 論文、英文 41）が選出された。研究デザインとしては、システマティックレビュー（SR）1 件、無作為化比較研究（RCT）17 件、比較研究（non-RCT）26 件、コホート研究 38 件、前後比較研究 81 件、症例対照研究 29 件、横断研究 141 件であった。

選出された SR 研究（資料 4-P5 参照）は日本語論文であった。認知症者の認知機能障害及び Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia（BPSD）に対する、訪問リハビリテーションの現状に関する内容であった。選出された RCT 研究（資料 4-P6,7 参照）は日本語論文が 13 論文、英語論文が 4 論文であった。理学療法に関連するものは 8 論文、作業療法は 4 論文であり、認知症に関連するものが 5 論文あった。選出された 333 研究にて対象となった疾患の内訳では認知症関連が 71 論文と多かったが、疾患分類なしが 156 論文という結果であった（資料 4-P8 参照）。また使用された評価項目の解析では、TUG・10m 歩行テスト、握力・MMSE・BI・膝伸展筋力・OLS・FIM・HDS-R が 50 件以上みられた（資料 4-P9 参照）。

D．考察

本研究結果より、介護保険のリハビリテーションにおいてエビデンスを有する 333 論文が選出された。SR では認知症に関連した内容であり、17 論文の RCT 研究は転倒予防、生活行為改善、認知機能・周辺症状改善を対象とした研究が散見され、介護保険のリハビリテーションマネジメントにおける傾向を反映しているのではないかと考える。これらの質の高い SR や RCT が含まれる一方で対照群を持たない前後比較研究も多く、これらはリハビリテーションの効果を評価しているものの、エビデンスレベルとしては高くない。医療保険の疾患別リハビリテーションから介護保険のリハビリテーションへの円滑な移行をテーマとしていた論文も散見されたが、疾患別よりも介護度に着目した論文が多かった。本研究結果で特徴的であったのは、疾患の記載がない報告が 47%と多いことであった。疾患・外傷分類と生活機能分類は、本来、相互補完的であるべきだが、介護の現場では生活機能に注目している結果が反映されているのではないかと考える。今後は選出された論文について、疾患別のエビデンスと評価項目についてもさらに解析を行う必要があると考えられた。

E．結論

本研究では、5 つの検索エンジンに key word 入力を行い、15,572 論文からレビューを行った。PRISMA 声明に基づいて一次・二次スクリーニングを行い、最終的に 333 論文（和文 292 論文、英文 41）が選出された。今後は疾患別のエビデンス整理と評価項目に関する検討が必要である。

F．健康危険情報

当該年度研究では特になし

G．研究発表

1.　論文発表

当該年度ではなし

2.　学会発表

当該年度ではなし

H．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

当該年度ではなし

2. 実用新案登録

当該年度ではなし

3.その他

当該年度ではなし